

4.長岡京跡左京第547次(7ANYHD-1地区) 発掘調査報告

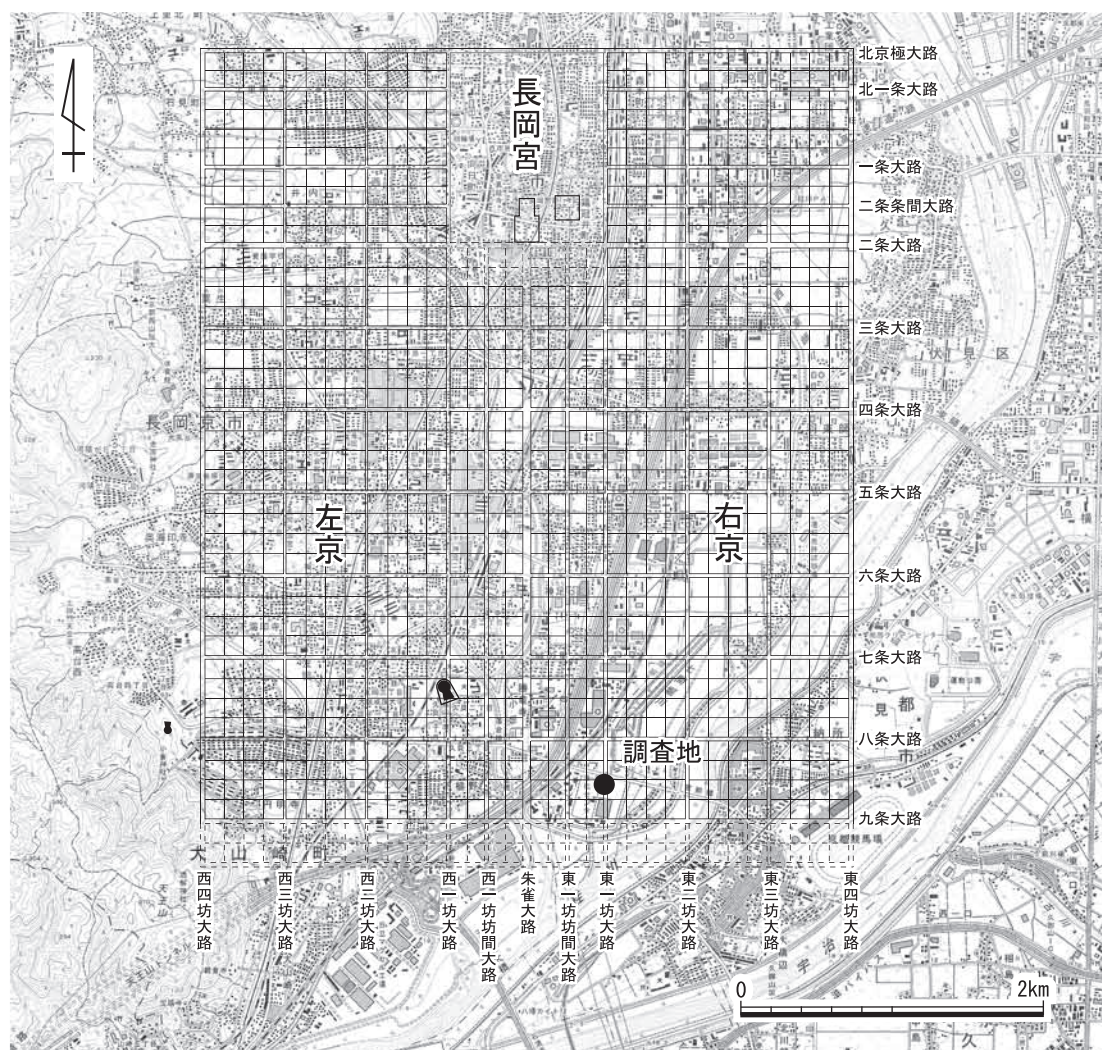
1. はじめに

今回の発掘調査は、平成23年度桂川右岸流域下水道幹線管渠工事(雨水南幹線)に伴い、京都府流域下水道事務所の依頼を受けて実施したものである。

今回の調査地は、長岡京跡左京域南端の九条域にあたり、長岡京跡の条坊復元案では朱雀大路の東にあたる東一坊大路の推定ライン近く及び左京九条一坊十三町域にあたる。

周辺の調査状況は以下のとおりである。

平成20年7・8月に京都府流域下水道事務所内で発掘調査(左京第527次調査^(注1))を実施し、中世段階において水田等の広がりを確認した。また、平成10年度に今回の調査地の北側で実施された



第1図 調査地位置図(国土地理院 1/25,000 京都西南部)

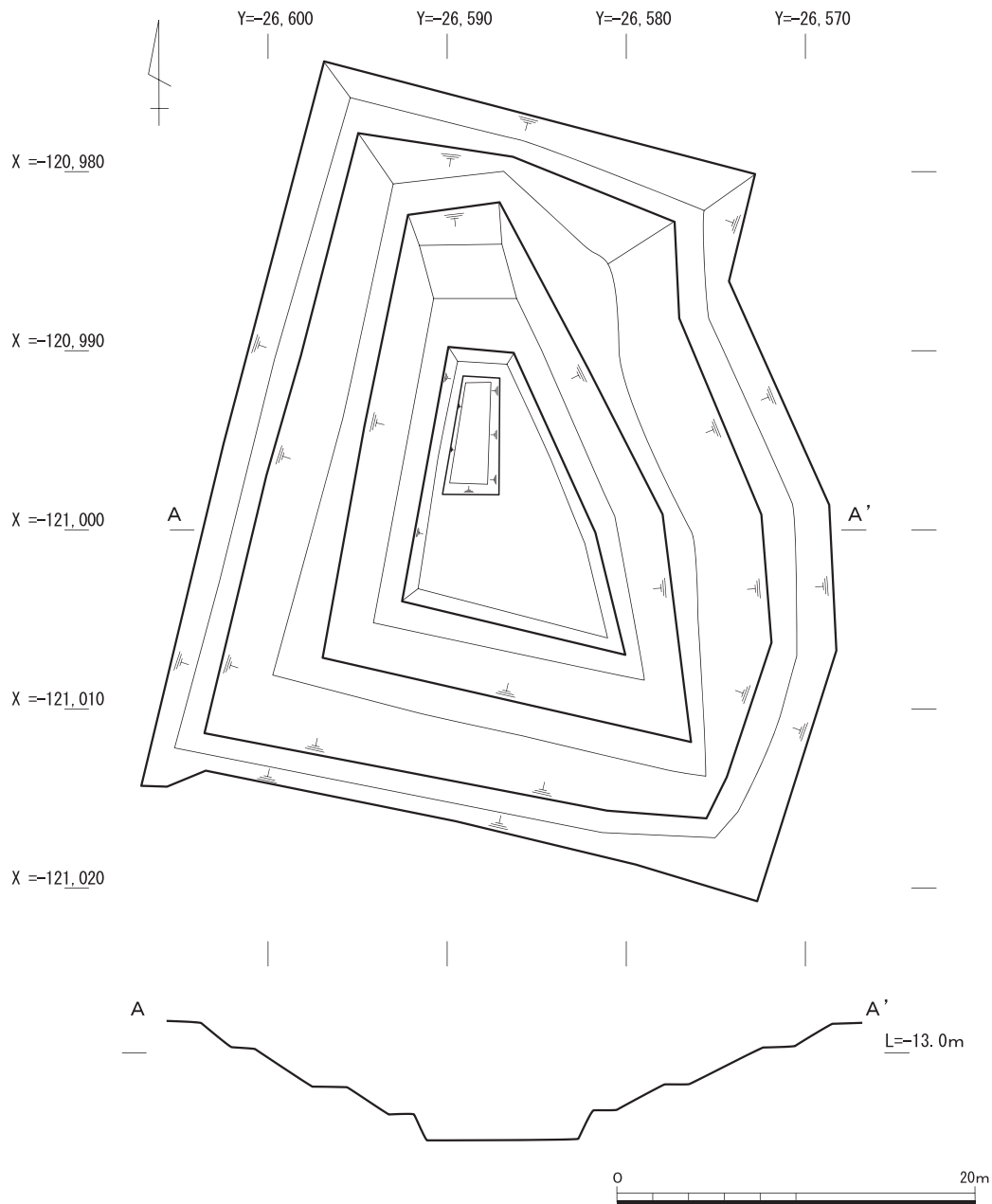
長岡京跡左京六・七条三坊(京都市清掃局敷地内)の調査では、長岡京期の墨書人面土器を含む祭祀の跡が検出された。^(注2)このように、調査地点の近辺において、古代から中世にかけての遺構が検出されていることから、調査を実施することとなった。

現地調査にあたっては、京都府教育委員会をはじめ京都市文化市民局、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、京都府流域下水道事務所などの関係諸機関にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝します。なお、調査に係る経費は、京都府流域下水道事務所が全額負担した。

〔調査体制等〕

現地調査責任者 調査第2課長 水谷壽克

調査担当者 調査第2課主幹調査第3係長事務取扱 石井清司



第2図 調査地平面図

同 次席総括調査員 田代 弘

調査場所 京都市伏見区淀大下津町(京都府流域下水道事務所内)

現地調査期間 平成23年 8月17日～10月27日

調査面積 500㎡

2. 調査概要(第2図)

調査地点には、2 m以上の盛り土がなされ整地されていた。そのため、調査に先立ち、この盛り土層を除去する必要があるとあり、そこで、掘削機械と土砂搬出用の大型重機を投入し、旧表土まで土砂を除去した。

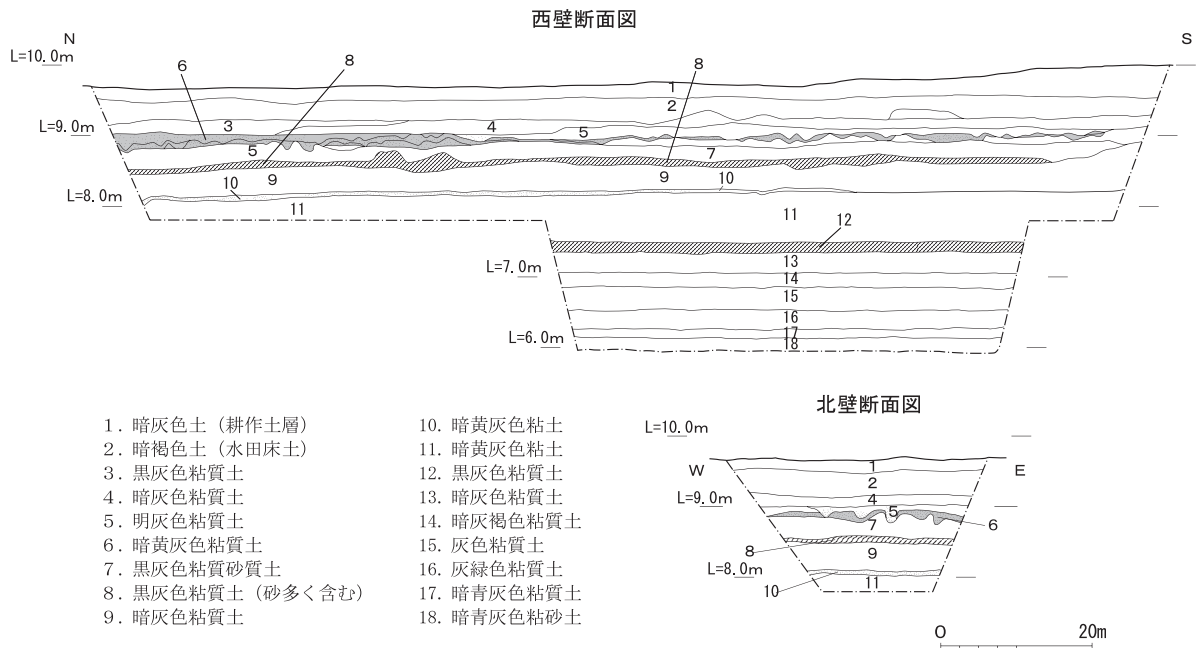
旧表土である水田面、以下の堆積土を遺構や遺物の有無を確認しながら、慎重に掘削を行った。安全斜度を保ちながら、最終的には、現地表下約 6 mまで掘削した。この面の高さが標高約 8 mである。この面まで、途中、人力による精査を繰り返しながら、遺構・遺物の有無を確認した。

この間、二つの土層において、植物の生息痕跡を認めることができた。ただし、畦や畝など人工的な痕跡を認めることはできず、この植物が水田や畑作に伴うものであるかどうか、何の植物に由来するものであるかどうかなどについては明らかにすることができなかった。

標高 8 m地点まで掘削を行ったが、この深さが安全斜度を保てる限度であり、この面を最終的な面として精査を実施したが、遺構・遺物は認められなかった。この後、さらに 2 m掘り下げ、標高 6 mの地点まで精査したが、灰色粘土が堆積するのみで、遺構・遺物は確認できなかった。

3. 土層の堆積状況(第3図)

最上層に厚くおかれた整地土がある。この整地土は近年の盛り土である。盛り土除去後に旧耕



第3図 土層断面図

作土層を検出した。この土層以下、最終検出面までの間に確認した土層の堆積状況、色調等について略記する。

基本層序は、以下のとおりである。第1層は暗灰色土、第2層は暗褐色土である。これらは、旧水田耕作土層である。第3層は、黒灰色粘質土である。有機物を多く含む粘土質土層である。これ以下は、色調が灰色系の粘性の高い水性堆積物とみられる。

第4層には、先に記したような植物の根株の痕跡と見られる楕円形の痕跡が認められた。この痕跡は砂で覆われている。この砂は洪水により運ばれてきたものと推測される。

第5層、第7層、第9層は、黒灰色～暗黄灰色系の粘土あるいは粘質土である。砂の混入の粗密はあるが、類似する堆積環境であったことが想定される。第6層と第7層は、黒色系の土層である。この土層が堆積した時期には、陸化が進み、植物が繁茂して土壌化した様子がうかがえる。

4. まとめ

以上のように、今回の調査は、中世の水田痕跡あるいは長岡京期の遺構・遺物の検出を目指して実施したものだったが、上記のように、人工的な明確な遺構の痕跡あるいは遺物を検出することはできなかった。土層堆積の観察の結果からは、調査地点周辺は、淀川に近接して形成された湿地あるいは荒蕪地として存在した可能性が高いと考えられる。水田などとして利用されたが、居住地など人々の生活の場として利用されたことはなかったと考えられる。

(田代 弘)

注1 松井忠春「長岡京跡左京第527次(7ANYSK-1地区)発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告集』第132冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2009

注2 長宗繁一ほか『水垂遺跡 長岡京跡左京六・七条三坊』(『京都市埋蔵文化財調査研究所調査報告』第17冊 (財)京都市埋蔵文化財調査研究所) 1998

(1) 重機による表土掘削・
除去作業の状況(西から)



(2) 調査地内への基準点
設置作業状況(東から)



(3) 土層堆積状況の検討と
実測図作成状況(南西から)





(1) 調査トレンチ土層の堆積状況
(北東から)



(2) 土層堆積層序の状況(南から)



(3) 植物の生息痕跡とみられる断面
の状況(南から)



(1) 掘削作業状況(北東から)



(2) トレンチ完掘状況全景
(南東から)



(3) トレンチ完掘状況全景(北から)



(1) 重機による深部掘削状況
(北西から)



(2) 重機による深部掘削状況
(西から)



(3) 深部掘削断面の状況(西から)

京都府遺跡調査報告集 第 149 冊

平成24年 3月31日

発行 公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141